

オープン市場短信 (2013年7月)

2013. 7. 11

◆ 6月のCP市場動向

6月のCP月末残高は、14兆8602億円と前月比2223億円の増加となった。但し、短期社債の6月末残としては過去最低の水準であった。

一般事業法人は、有利子負債圧縮目的での残高調整が影響し、前月比10.13%の減少となった。一方、その他金融で1.42%、金融機関発行分で6.60%、ABC Pで22.65%とそれぞれ増加した。

発行レートは、新発が伸び悩んだこともあり、全般的に弱含み地合いとなった。一般事法（電気機器を除く）では、0.097%～0.110%台半ばでの出会いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.1039%～0.1130% 一般事業法人（a-1格）0.1040%～0.1150%

その他金融銘柄（a-1格）0.1044%～0.1320%

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	6月末残高	5月末残高	増減
一般事法	38,172	42,571	▲ 4,399
その他金融	58,686	57,864	822
金融機関	30,201	28,380	1,821
（政府系金融	350	350	0）
（銀行等	12,662	12,705	▲ 43）
（証券	17,189	15,325	1,864）
ABC P	21,543	17,564	3,979
計	148,602	146,379	2,223

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

6月のCPLレートレンジ

（単位 %）

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+（一般事法）	0.0970% ～ 0.1040%	0.0965% ～ 0.1050%	0.1039% ～ 0.1130%
a-1（一般事法）	0.1025% ～ 0.1140%	0.1035% ～ 0.1150%	0.1040% ～ 0.1150%
a-1+（リース銘柄）	0.0900% ～ 0.1008%	0.1020% ～ —	0.1025% ～ 0.1040%
a-1（リース銘柄）	0.1040% ～ 0.1230%	0.1045% ～ 0.1270%	0.1044% ～ 0.1320%
a-2	0.1170% ～ ケ0.30%	0.1300% ～ ケ0.40%	0.1100% ～ ケ0.50%

《CPオペ》

CP買入オペは、6日・13・25日と3回実行された。6日・13日のオペは、応札が6千億円台後半に止まり、落札レートは前回より低下し共に0.099%であった。25日のオペでは、月中旬以降発行増となったことからディーラーの応札ニーズが強まり、落札レートは上昇した。 [6月末のオペ残高・・・2兆468億円]

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
6月6日	6月11日	4,000	6,842	3,947	0.099%	0.101%	2.2%
6月13日	6月18日	4,000	6,775	3,690	0.099%	0.100%	90.0%
6月25日	6月28日	4,000	8,360	3,584	0.101%	0.103%	90.0%

《ABC P》

ABC Pは、四半期決算要因で前月比 3979 億円の増加となり、2兆 1543 億円となった。前年同月比では、1525 億円の減少であった。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は新規登録等が無かった為、494社と変わらず。6月末時点における通算の発行企業数は、日鉄住金物流が初発行したことから、526社となった。

《CP現先市場》

現先レートは、6月中も落ち着いて推移 (0.100%前後～0.105%前後) した。

◆ 7月のCP市場動向

7月中のCP償還額は約2兆8600億円で、前年同月の償還額 (約3兆1200億円) を下回っている (除く、金融機関発行CP・ABC P)。

今月は、6月末に有利子負債圧縮目的で残高調整した企業の復活発行や賞与資金手当ての新規発行が行われ、一般事法では発行増が見込まれる。金融機関も、9月末越えの資金手当てが見込まれるため、発行増となるのではないかと。その為、ABC Pが減少しても15兆円を上回る残高が予想される。

3日に、日銀短観「CPの発行環境 (発行企業ベース)」の公表があった。それによると、DI (“楽である” - “厳しい”) が前回調査より、大企業の製造業でプラス8ポイント、非製造業ではプラス3ポイントと大幅改善となっていた。電気機器関連での発行が、前回調査時と比べ良化したことや発行環境が極めて落ちついていることが、改善の要因であろう。

発行レートは、引き続き資金余剰が影響していることも手伝い、投資家やディーラーの購入ニーズが強く、一般銘柄の3M物では0.100%台前半～0.110%近辺の出会い。その他

金融・リース銘柄(a-1格銘柄)の3M物では、0.100%台半ば~0.125%近辺での出合いをそれぞれ予想する。また、年越え物の資金調達を行う動きが見られるが、イールドは立たず3M物とほとんど変わらない水準となっている。

《CPオペ》

今月は、9(実施済)・17・25日と計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定。9日のオペ結果は、前回オペ同様応札が8千億円を超えるなどで、ディーラーの売却ニーズは強く、足切りレートは横這いであった。次回以降についても、今月に入り発行が増加していることもあり、足切りレートは横這い推移と思われる。

月末オペ残高は、2兆円近辺を予想する。

《CP現先市場》

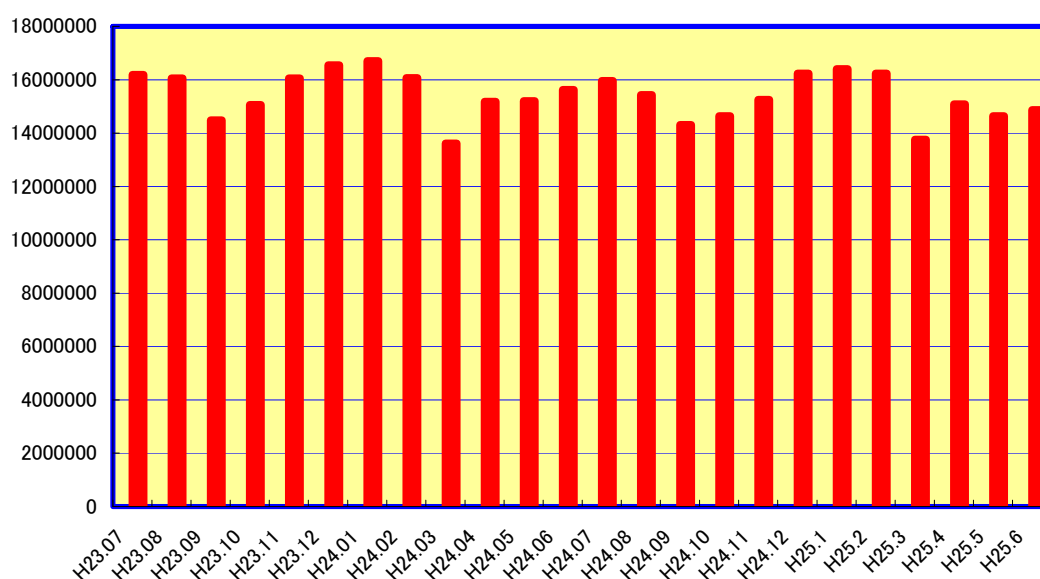
レポレート(S/N物)は0.100%近辺、インターバンクレート(O/N物)は、0.06%~0.08%近辺で推移している。CP現先レートは、0.095%~0.105%近辺での出合いを予想。

参考資料

短期社債月末残高 (23年7月~25年6月)

発行登録企業：494社 (発行実績あり 526社)

(過去2年間の残高を表示)



6 月末発行残高ベスト 20

6月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	6月末残高	5月末残高
1	三菱UFJリース	789,600	827,000
2	三井住友ファイナンス&リース	784,300	766,800
3	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	639,280	578,200
4	東京センチュリーリース	626,800	620,300
5	三菱UFJモルガンスタンレー証券	501,700	437,200
6	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
7	JXホールディングス	448,000	426,000
8	三井住友信託銀行	424,500	447,500
9	エイペックス・ファンディング・コーポレーション	400,730	297,500
10	興銀リース	334,700	329,700
11	JA三井リース	330,000	330,000
12	アルカディア・ファンディング	325,440	331,000
13	大和証券	320,980	338,250
14	みずほ証券	300,100	306,200
15	野村證券	287,000	210,500
16	フォレスト・コーポレーション	244,345	178,270
17	芙蓉総合リース	239,700	219,700
18	日本証券金融	226,000	187,000
19	NTTファイナンス	217,000	171,000
20	ホンダファイナンス	198,000	201,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会